

企業訪問 資源循環レポート

(株) 企業処理サービス

資源循環の局地で挑む プロフェッショナル集団

株式会社 企業処理サービス



株式会社企業処理サービス・中間処理場

■代表者／代表取締役 金井 邦剛

■所在地／愛知県岡崎市在家町字向前田36番

TEL 0564-64-9797 FAX 0564-64-9798

昭和52年創業、愛知県内の産業廃棄物及び一般廃棄物の収集運搬業を主業とし、平成14年に株式会社

に再編。平成21年に岡崎市内に積み替え保管場、平成25年に中間処理場を新設し、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県の収集運搬業許可を取得。

令和元年には建設業の許可を取得し、解体工事業に進出。

また、機器分解や貴金属リサイクルのリサイクルルートを保持し、製造業、建設業、サービス業、あらゆる業者の顧客に対応。

(株) 企業処理サービスは廃棄物回収能力及び優れた処理ノウハウを活かした、持続可能な開発目標を基軸とした経営を推進されています。

今回は同社代表取締役の金井邦剛氏、常務取締役の石黒浩二氏に、産廃業界における風雲児・プロフェッショナル集団の“ドコまでも駆け巡る”の極意、仕事の流儀についてお話を伺いました。



左から石黒常務、金井社長

■機器分解及び貴金属リサイクル

経済発展において根幹となる資源は各国が注目し、かつて、国境を越え奪い合うなどの戦いが起きていたことは史実からも明白です。

近代における資源とは、金属、貴金属、エネルギー、情報といったところでしょうか。

この数年においては新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による遠隔業務においては、通信機器(デバイス)、制御機器の基板や銅配線などにおいては、



廃基盤は等級別に選別、保管

金属や貴金属資源を多く必要とする製品であり、今後より多く必要とされるとことは必至です。

このような状況下、日本は資源の乏しい国であるため、資源の大部分を輸入により調達してします。

しかし、一度輸入したものを再度、国内で再資源化することにより、輸入に頼らず国内で循環する希望が持てます。これは外交交渉上、不利に働いていた部分を緩和することができるかもしれないと再利用に着目しました。

同社は資源の国外流出を防ぐために有価物として仕入れた機器類を自社にて素材毎に分解・分別し、国内の鉱山企業へ流通するという資源の国内循環リサイクルの構築を実践しています。

■できないと言った案件はない

化学工学を専攻された金井氏は、廃棄物処理工学における廃棄物の化学的組成や処理業者の処理方法などを理解し、対象廃棄物を前処理段階でどのように加工すれば処分業者が受け入れてくれるかに精通し、前処理段階の加工を自社工場で行っています。

同氏の化学的知識による分析と長年の実践から得たデータベースにより、どのような状態でも、どのような組成でも、厳しいかなと思える状態であっても、多様な廃棄物に向き合い、今まで断った案件はないと胸を張って話されました。

“できない”と断らない背景には、かなりの企業努力とできるまで答えを求める探究心、そして根底にはCS（顧客満足度）の向上を目指したコンセプトが社風となり社員の皆さんの誇りとなっているようです。

■人的資源

現在、役員3名、社員18名、この10年の退職者はいないとのことでした。

同氏は、「他社に負けないプラントがある訳でもなく、他社に負けない人数がいる訳でもなく、他社に負けない広大な敷地がある訳ではない。だからこそ、社員が辞めない仕組みを作ることにより、回収能力・処理ノウハウのさらなる向上を見込める。

そして、どのような案件にも一致団結し臨むことができる。」と力強く述べました。

CSの高い企業はES（従業員満足度）も高いと社会的評価の目安としていわれておりますが、同社は社風として二つの要素を実践されていきました。

■社員が辞めない仕組みとは・・・

創業以来、人材育成、福利厚生など社員の働きやすい環境づくりを一番に考えてきました。

その中で気づいたことは、ハードワークと言われるがちな業界ですが、仕事を通して習得した専門知識は、業務をする上での自信となり、同僚へ、部下へと周りにプラスの波及効果をもたらしていました。

気づかぬうちに社員間で絆ができ、互いに支え合い、阿吽の呼吸が業務の効率化を図れるようになっていったのではないかと思います。

今思えば何か特別にというよりも、仕事に取り組みやすい施設環境、現場の声を反映した安全衛生への取り組み、一人にさせない職場の人間関係づくり、風通しの良い会社経営等が私の流儀であり、現在に到っています。

資源循環のプロフェッショナルとして、できて当たり前前の理想を実現する集団、その一員としてそれぞれに日々鍛える(知識の習得、意識啓発等)ことが、弊社のプロたる所以だと確信しております。

(金井社長談)



左から若手社員の皆様(右端：金井社長)

※ 緊急事態宣言下ということもあり、資料のご提供等による取材にご協力いただきありがとうございました。